

国際協力と多文化共生

～地域づくりと連携・協働の視点から～



2012年 **12**月**7**日(金) 13:00～18:00 **コムズ5F** (松山市三番町6丁目4番地20)

参加費：無料

参加申込・問合せ先

NPO 法人えひめグローバルネットワーク Tel/Fax:089-993-6271 E-mail:wakuwaku@egn.or.jp

参加対象者：四国の自治体、地域国際交流協会、NGO/NPO 関係者、企業、大学生、その他関心のある方

共催：財団法人自治体国際化協会（市民国際プラザ）、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク、独立行政法人国際協力機構（JICA）四国支部、四国 NGO ネットワーク（SNN）（予定を含む）後援：香川県、愛媛県、徳島県、高知県、松山市、公益財団法人香川県国際交流協会、公益財団法人愛媛県国際交流協会、財団法人徳島県国際交流協会、公益財団法人高知県国際交流協会、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（予定を含む）協力：財団法人松山国際交流協会（予定）

はじめに

(財)自治体国際化協会（CLAIR、以下クリアという）は、自治体や地域国際化協会、NGO/NPO等の関係者が交流し、マッチングを促す機会を提供する場として日本各地で地域国際化ステップアップセミナーを毎年開催しています。

本セミナーは共催4団体をはじめ、四国4県の自治体担当課や国際交流協会、NGO/NPO、企業の皆様よりご協力を得て、さまざまなアイデアを共有し、四国において必要とされている課題や向かうべき方向性、地域づくりと国際協力・多文化共生の可能性を検討しながら企画しました。本セミナーを通じて、四国の多様なアクターが集い、相互に有機的なつながりが生まれ、次のステップへ踏み出す機会となることを目指しています。

プログラム

12:30～ 受付 (5F 大会議室前)

13:00～

開会挨拶

司会進行 竹内よし子・NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表
主催団体挨拶 日向和史・財団法人自治体国際化協会交流支援部長
共催団体挨拶 黒川恒男・独立行政法人国際協力機構（JICA）理事
歓迎挨拶 森本準・公益財団法人愛媛県国際交流協会所長



13:20-14:30

基調講演 (Q&A を含む)

羽賀友信・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
「グローバル人材が生まれる！育つ！地域づくりの秘訣！」

阪神淡路・中越・中越沖・東日本大震災と多くの震災復興に携わってきた経験を踏まえ、多様な市民が連携し、異分野のアクターが協働することができる「多文化共生社会」の実現を探る。東南海・南海地震に備えるため、そして、世界に通用するグローバル人材を育成するために、今、四国で取り組むべきこととは何か、また、自治体、企業、国際交流協会、JICA、NGO/NPO など、多様なアクターによる連携・協働の力は何かを考える。

羽賀友信氏のプロフィール：現職（2002年より）では、多文化共生社会を目指し「出会→交流→協働」をコンセプトとした地域づくり・グローバルな人づくりを多面的にコーディネートし、協働による地域力を世界に発信している。中越地震（2004年）、中越沖地震（2007年）の際は、外国人被災者の救援に奔走、以来、災害時救援の普及活動やスマトラ沖地震、四川大地震からの復興にも尽力。市民協働ネットワーク長岡代表理事、まちなかキャンパス長岡学長、長岡市教育委員、(財)米百俵財団評議員、(社)中越防災安全推進機構理事、JICA 地球ひろば国際協力サポーター、新潟県青年海外協力隊を育てる会副会長、NPO 多文化共生マネージャー協議会理事等々を兼職。外務大臣感謝、2008年 JICA 理事長（緒方貞子）賞受賞、地域づくり総務大臣表彰。2009年度長岡市表彰。現在は東日本大震災バックアップセンター（長岡）の代表として現地支援（陸前高田市）・受入支援（南相馬市）を継続実施中。

(14:30-14:45 分科会の内容と会場の案内、会場移動)

14:45-16:45

分科会(グループディスカッション)



第1分科会 四国発・BOP ビジネスを通じた地域活性化と国際協力 (5F 会議室5)

国際協力への市民参加や中小企業など民間連携を進める JICA とともに、企業・自治体・大学・NGO/NPO はどのように連携・協働しながら、途上国支援や国際協力活動を実施していくことが可能だろうか？ここでは、BOP の仕組み・イメージを共有しながら、多様なアクターの具体的な関わり方、展開の可能性を議論する。

■ 話題提供者

① 藤重直紀・有限会社藤重電機取締役社長（香川）

フィリピンでジャトロファという植物からバイオディーゼルを作る BOP ビジネスを始めて、今年で5年目となる企業の事例紹介し、現状と課題を議論する。

② 金城正信・金城産業株式会社取締役社長（愛媛）

モザンビークで金属リサイクルの BOP ビジネス展開の一步を踏み出した企業の事例紹介。リサイクル業を BOP ビジネスとして進める上での問題点と可能性を議論。

■ ファシリテーター：新田恭子・公益社団法人セカンドハンド創設者（香川）

■ アドバイザー：長澤一秀・独立行政法人国際協力機構（JICA）四国支部長（香川）



第2分科会 外国人のための防災と多文化共生のしくみづくり (5F 大会議室)

外国人を含む防災、多文化共生づくりのためには、自治体、国際交流協会、社会福祉協議会、JICA、NGO/NPO など多様なアクターが、県域・分野・立場を越えて連携することが必要。ここでは、四国で、どのような連携・協働を生み出していくことが可能なのか、関係者の顔が見える関係・ヨコの連携構築を図りつつ意見交換していく。

■話題提供者

①野水祥子・財団法人徳島県国際交流協会 (TOPIA) 国際交流・協力コーディネーター (徳島)

今年度、TOPIA が取組んでいる徳島県在住外国人向け「防災ガイド」(冊子)や緊急時の多言語カードによる情報発信の方法について共有。災害時の中四国ボランティア広域連携に関する動きを紹介。

②上田勝久・特定非営利活動法人内蒙古愛陽教育経済支援協会理事長 (徳島)

内蒙古における教育経済支援を通じた国際協力活動歴 15 年、地域の消防団活動歴 43 年の経験を踏まえて、地域の多文化共生・連携のあり方や、緊急時に備えるしくみづくりを提案。

■ファシリテーター：前田正也・高知希望工程基金会長 (高知)

■アドバイザー：羽賀友信・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 (新潟)



第3分科会 国際交流・国際理解と ESD (4F 国際交流会議室)

四国内の小・中学校、高校における国際理解教育の現状や課題、4 県大学・JICA・四国 NGO ネットワーク共催「四国・国際協力論」の現状について共有。また、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の視点を加えたことにより、学校と NGO の連携が継続した取組へと発展した事例から、今後の国際交流・国際理解教育に「+ESD」を取り入れる可能性を探る。

■話題提供者

①坂山英治・国際理解の風を創る会代表 (高知)

四国内のさまざまな教育機関で国際理解教育・開発教育の普及に取り組んできた経験・事例を基に現状や課題を共有。また、「国際理解の風を創る会」を通じて構築してきた教員とのネットワーク、高知大学における「国際協力論」などを紹介。

②吉田健二・財団法人松山国際交流協会 (愛媛)

自治体・国際交流協会・JICA・NGO/NPO・企業など、多様なアクターが学校とつながり、継続的な取組みとして展開している事例と、「ESD コーディネーター派遣制度」を紹介。

■ファシリテーター：藤野紀子・四国 NGO ネットワーク事務局 (香川)

■アドバイザー：竹内よし子・ESD-J 理事 (愛媛)

(16:45 - 17:00 会場移動)

17:00-18:00

全体共有 (5F 大会議室)

司会進行：竹内よし子・四国 NGO ネットワーク代表

分科会発表

第1分科会：新田恭子・公益社団法人セカンドハンド創設者

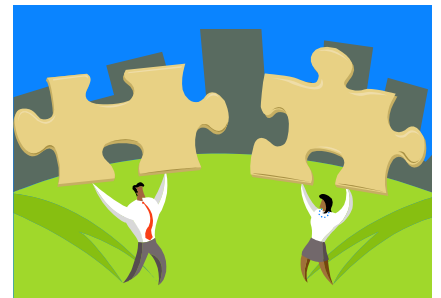
第2分科会：前田正也・高知希望工程基金会長

第3分科会：藤野紀子・四国 NGO ネットワーク事務局

総評：羽賀友信・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長

閉会挨拶

長澤一秀・独立行政法人国際協力機構 (JICA) 四国支部長



18:00-19:00

交流会 (軽食をご用意します。参加費自己負担)

■申込方法：①お名前 (ふりがな)、②ご所属、③ご連絡先 (E-mail 及び電話番号)、④参加希望分科会 (第1希望、第2希望)、⑤交流会への参加の有無を明記の上、下記までメールまたは FAX にてお申し込みください。【締切：11/29 日 (木)】

■お申込み先：NPO 法人 えひめグローバルネットワーク

TEL&FAX 089-993-6271 E-mail : wakuwaku@egn.or.jp

URL : <http://www.egn.or.jp>

コムズへのご案内図

駐車スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

